

おさきじんじゃ ちゅうてつせいほうけん

## 尾崎神社の鑄鉄製宝剣

指定種別：市指定文化財

指 定 日：平成 24 年 11 月 28 日

所 在 地：釜石市浜町（尾崎神社）

制 作 年：安政 6 (1859)～万延元(1860)年

寸 法：高さ 202.5 cm 厚さ(最大)6.3 cm

銘 文：上部 奉納

下部 清岡澄 栃内弓太

茎 鑄工鈴木忠七



安政 4 年(1857)、盛岡藩士大島高任が大槌通甲子村大橋（現：釜石市甲子町大橋）で日本初の洋式高炉建設に成功しました。当時のたたら製鉄との違い、連続出鉄を可能としたもので、大きな技術革新となりました。

大橋鉄鉾山の出資は、山田の貫洞瀬左衛門と大槌の小川惣右衛門、久慈の中野作右衛門によるものでしたが、安政 6 (1859)年には、御手行（藩営）となり、万延元(1860)年、貫洞はお役御免となりました。

尾崎神社の鑄鉄製宝剣は、日本初の高炉法による出鉄に成功した大橋鉄鉾山で制作されていた奉剣であり、その稼働者たちの名が陽鑄されている点からも、製鉄史上重要かつ画期的成功を証明する歴史遺産として貴重なものです。